

第 23 回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

- | | |
|--------|---|
| 1. 日 時 | 平成8年7月31日（水）
14：00～16：00 |
| 2. 場 所 | 委員会会議室 |
| 3. 議 題 | (1) 前回議事要旨の確認について
(2) 航空・電子等技術審議会報告について
(3) 出張報告について
(4) 小型自動着陸実験(ALFLEX)について |
| 4. 資 料 | 委23-1 第22回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
委23-2 地球変動予測の実現に向けて
委23-2 第10回宇宙基地協力協定改正交渉等結果概要
委23-4 小型自動着陸実験(ALFLEX)の成果について |

委 23-1

第22回宇宙開発委員会（定例会議） 議事要旨（案）

1. 日時 平成8年7月24日（水）
14:00～15:30
2. 場所 委員会会議室
3. 議題
 - (1) 前回議事要旨の確認について
 - (2) 宇宙開発委員会参与について
 - (3) ゴア米副大統領／チェルノムイルジン露首相会談について
 - (4) 宇宙開発事業団の今後の広報計画について
 - (5) 宇宙科学研究所観測ロケット実験について
4. 資料
 - 委22-1 第21回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
 - 委22-2 宇宙開発委員会参与（案）
 - 委22-3 ゴア米副大統領／チェルノムイルジン露首相会談について
 - 委22-4 宇宙開発事業団の今後の広報計画について
 - 委22-5 観測ロケット実験説明（S-310-25、26号機）
5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理	野 村 民 也
宇宙開発委員会委員	山 口 開 生
〃	末 松 安 晴
〃	長 柄 喜一郎

関係省庁	
通商産業省機械情報産業局次長	一 柳 良 雄（代理）
郵政大臣官房技術総括審議官	甕 昭 男 〃

事務局	
科学技術庁長官官房審議官	大 熊 健 司
科学技術庁研究開発局宇宙政策課長	千 葉 貢 他
6. 議事
 - (1) 前回の議事要旨の確認について
第21回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（資料委22-1）が確認された。
 - (2) 宇宙開発委員会参与について
事務局より、資料委22-2に基づき、参与について説明があった。

(3) ゴア米副大統領／チェルノムイルジン露首相会談について

宇宙利用課 倉持課長より、資料委22-3に基づき、平成8年7月15日～16日にロシアでゴア米副大統領／チェルノムイルジン露首相会談が行われ、その共同宣言に宇宙ステーションに関連する事項が盛り込まれたこと及びその事項の内容、その他米露間の宇宙科学に関する協力について説明があった。宇宙ステーションに関連する事項については以下のとおり。①宇宙ステーション計画における了承覚書を暫定的に合意、②宇宙ステーションの経費及び資源配分に対する考え方に合意、③1998年までシャトル・ミール計画を延長するための技術的及び財政的責任について合意、④宇宙ステーション計画に関するマイルストーンに合意、⑤初期の重要な要素たる露提供のサービスモジュールのために、堅実かつ適切な財源を確保。

(4) 宇宙開発事業団の今後の広報計画について

宇宙開発事業団 丹尾広報室長より、資料委22-4に基づき、これまで宇宙開発事業団（以下NASDA）の広報委員会において討議した今後の広報計画について以下のような説明があった。計画の基本的な考え方として、①国民からより積極的な支援を得るため、わかりやすく、徹底したタイムリーな情報公開、②対話型・双方向型の広報活動の強化、③広報対象を重点化し、青少年に焦点を当てた活動を行うこと、また、基本的な進め方として、①各種メディアの活用、整備、充実、②科学館等の整備、充実、連携活動、③各種後援会の開催促進、講師の育成・派遣、その他4項目を実施する。この広報計画は、今年度中に策定を予定しているNASDAの5カ年程度に亘る「広報計画（PC²計画）」に含まれるものであり、平成9年度予算概算要求に反映される。

引き続き宇宙開発事業団広報室鈴木係員より、インターネットのNASDAのホームページの実演が行われた。

これに関し、委員より、広報予算、NASDAのホームページの利用状況、NASDAが行う行事の参加状況等について質問があった。

(5) 宇宙科学研究所観測ロケット実験について

宇宙科学研究所 中島教授及び早川助教授より、資料委22-5に基づき、中緯度域の電離圏におけるイレギュラリティ現象を観測し、その発生機構を解明することを目的とする観測ロケットS-310-25、26号機を本年8月に打ち上げる予定であること、その搭載機器、観測項目、観測領域、打上げ条件について説明があった。また、同月打ち上げ予定のS-520-18号機の準備状況について説明があった。

S-310-25、26号機に関し、委員より、現象の出現の頻度等、平成7年夏期実験の再実験の実施等の質問があった。

以上